日本総研 リサーチ・アイ
The Japan Research Institute, Limited

No.2010-13
2010年7月21日
http://www.jri.co.jp

高水準続く自然エネルギー投資

～ 天津生態城建設を中心に中国が牽引 ～

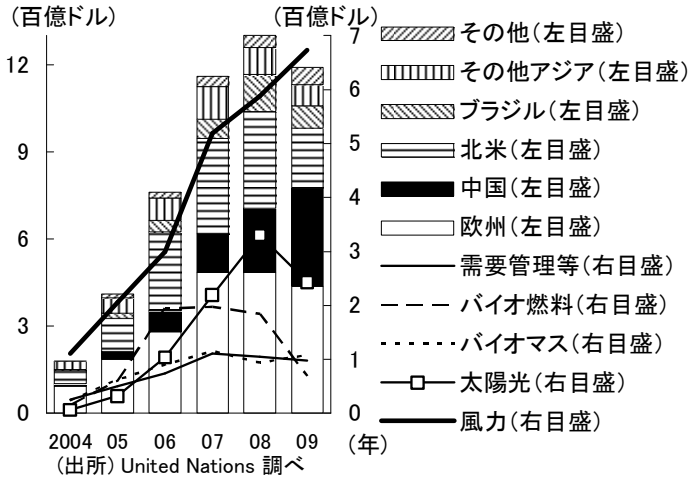
（１）自然エネルギー投資が引き続き高水準。国連調査によると、２００９年の世界の投資額は１１９０億ドル（図表１）。０８年の１３００億ドルから減ったものの、依然ハイペース。分野別には、太陽光やバイオマスが減速する一方、風力投資が一段と加速。それら３者以外では、スマートグリッドをはじめとする需要管理、バイオ燃料が底堅い動き。

（２）国・地域別にみると、大半の国・地域でリーマン・ショックの影響等によって投資が減少。とりわけ、北米は０８年の３３３億ドルから０９年２０７億ドルと３分の２に激減。それに対して、中国は０８年の２２１億ドルから０９年３３７億ドルへ大幅増加。世界全体の３割を占める投資大国に。

（３）地域別にみた中国の生産動向にも反映。サブプライムショックやリーマンショックに伴う変動を除去する観点から、０７年上半期対比で１０年上半期の工業付加価値生産額をみると、増加率の筆頭は天津（図表２）。主要政策目標という位置付けのもと、天津生態城（エコ・シティー）の建設が進展。背景には資源制約リスク。新興国の飛躍的成長は大幅な需要増に繋がる一方、供給には不透明感。ちなみに、米国連邦エネルギー省の世界中期原油生産予測によると、２０１０年代を通じて横這いで推移する見通し（図表３）。

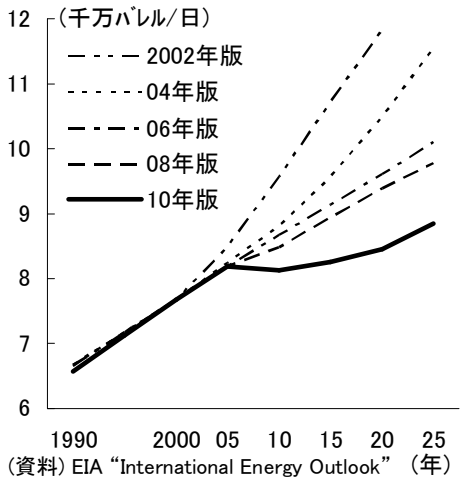
（４）環境市場は世界屈指のわが国モノづくり力を遺憾なく発揮できる有力な戦略分野。さらに、資源小国のわが国にとって資源問題は成長制約に直結。打開に向けた取り組みが焦眉の急。

（図表1）世界の自然エネルギー投資



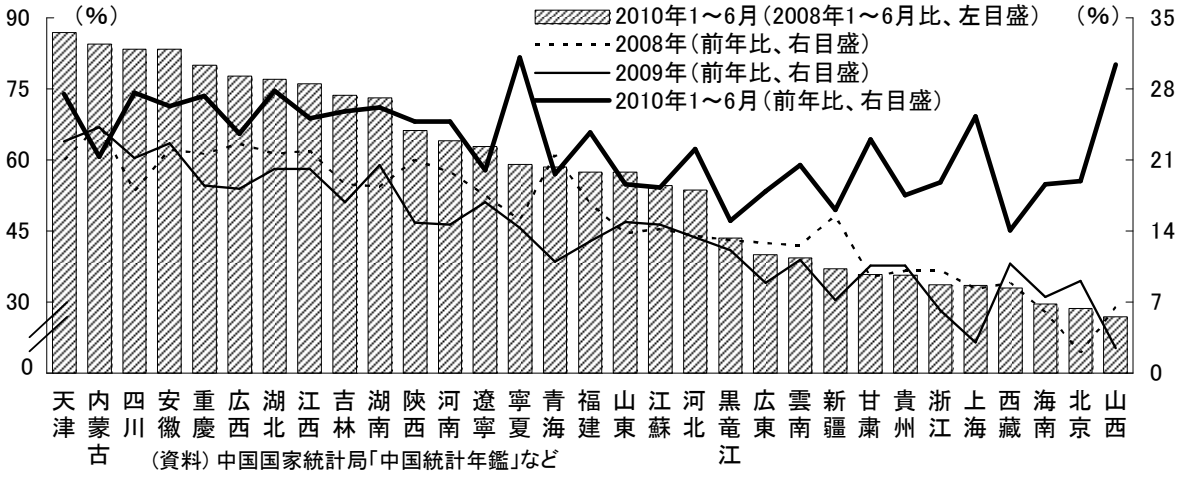
（出所）United Nations 調べ

（図表3）世界の原油生産量（米国EIA）



（資料）EIA "International Energy Outlook"

（図表2）中国の省・都市別工業生産付加価値額



（資料）中国国家統計局「中国統計年鑑」など

《ご照会先》日本総研調査部　藤 井（fujii.hidehiko@jri.co.jp、03-3288-4615）